



萌気会 理事長
萌気園浦佐診療所 院長 黒岩 巖志

人食いバクテリア

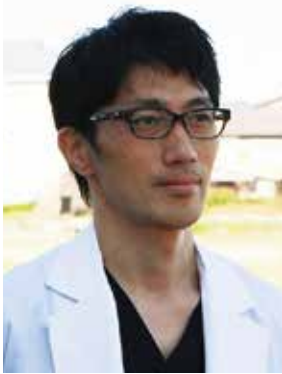
先日、溶連菌（溶血性連鎖球菌）に感染した子ども母親が『溶連菌は人食いバクテリアですよね?』と心配していた。

溶連菌による疾患でよくみられるのは、急性咽頭扁桃炎の他、膿痂疹、蜂巣織炎がある。稀ではあるが、筋肉などの軟部組織壊死を伴い、敗血症性ショックを来す劇症型溶血性連鎖球菌感染症（連鎖球菌性毒素性ショック症候群）は重篤な病態として問題である。劇症型は、手や足などの痛みや腫れに気づいてから、壊死が始まるまでは早ければ24時間で進行し、発症から48時間以内で死に至る場合もある。致死率が3割〜7割と高く、死に至るまでの驚異的なスピードから『人食いバクテリア』と呼ばれる。

たことで病原体に暴露される機会が減り、免疫が低下した。昨年5月に新型コロナウイルスが5類感染症へ格下げとなったことで、世の中の感染予防に対する意識が低下し、免疫の低下も影響し、多くの感染症が急増した。

のどの痛み、高熱が特徴の小児に多い溶連菌性咽頭扁桃炎から劇症型に移行することはほとんどない。小児や健康な大人でも、稀に劇症型を発症することもあるが、発症リスクが高いのは、がん、糖尿病、慢性心不全、慢性呼吸器疾患のような基礎疾患をもつ人などである。

劇症型は、皮膚にできた傷や炎症に溶連菌が感染することで発症することが多いので、水虫、褥瘡も含め皮膚のトラブルを放っておかれないことが予防策として大切である。



訪問介護ステーション「ゆいま〜る」の紹介

訪問看護ステーション「ゆいま〜る」は、2000年に萌気園浦佐診療所訪問看護部として設立（のちに「ゆいま〜る」と命名）され南魚沼市でも長い歴史のある訪問看護です。

師を育成しスタッフを増員する事が私の目標です。患者さんの「思い」や「生活」に寄り沿い心を込めた看護が今後も提供できるようにスタッフ一同懸命に努力していきたいと思っています。



萌気園訪問看護ステーション「ゆいま〜る」
所長・管理者 千喜良 妙紀

「ゆいま〜る」は沖繩の方言で助け合いを表す美しい言葉です。共同作業を必要とする農業から来た言葉だそうです。「ゆい」は（結い、共同・協働）、「ま〜る」は順番が回る、「相互扶助」を順番に平等に行う「助け合いの心」を意味します。

利用者さんは、高齢者の方、精神的な病気を持っている方、小児、難病の方、疾患により医療機器を装着されている方、看取り、癌による痛みのコントロールが必要の方など様々です。看護師不足でなかなか大変なこともあります。皆職員が協力しながら和気あいあいと仕事ができるような環境づくりをしています。今後は、萌気会・南魚沼の地域医療を支えていくために若い看護



久しぶりの散歩!



小児の利用者様と作った工作

フレームレス フアツションショー



6月23日は、モデルたちが楽しみにしていたフレームレスフアツションショー―夢草堂で行われました。

障がい者8人、高齢者4人というモデルさんたち、朝から洋服を着せてもらい、メイクをしてもらって、リハーサルをして、11・30からの本番を待ちました。去年は嫌だと言って出なかった一人(かずと)君が、今年にはGHにショートステイで来ていて、朝から、職員たちに呼びかけられて、その気になってくれました。男性は彼1人、女性の7人は、みんな去年出ているので、2回目です。高齢者は1人去年出た人で、残りの3人は今年が初めてです。

今年と去年の違いは、7月14日



夢草堂

(日)に聖籠町の文化会館で行われるミュージカル「ヒーロー、奇跡の僧侶空海と、青年の物語」に出演する踊り子たちが、子ども3人、大人4人で来て、踊ってくれるということ。このミュージカルの実行委員長が黒岩卓夫で、彼が、フレームレスフアツションショーのモデルさんたちに、このミュージカルのステージに上がってもらって一緒に踊ってもらおう、と言いだしたことから、「では、23日には私たちのほうが行って一緒に踊りましょう」ということになったのでした。そのおかげで、今年はずっと年と違って朝からとても賑やかでした。狭い夢草堂の中で、モデルたちもリハーサルをし、踊り子たちも畳の空間でリハーサルをしています。

さて本番、私が最初の挨拶で、「このショーが馬場裕子さんの発明から始まったこと。裕子さんの息子、日向君が事の始まりです。朝から晩まで数式を書いて暮らしている日向君の数式を見て、それをデザイン化して洋服を作ってしまった小川結布好さん。卓夫もその服を着ています。馬場裕子さんも日向君も着ています。2年前に十日町で行われたショーを見て、うちでもぜひやりたいと思っただけです。やってみたらモデルさんたちがとっても喜んで、終わった直

後から、『次はいつですか?』と言い続けた人がいました。そんな声に励まされて、今日その日を実現することができたのでした」

晴れやかな姿でモデルとして赤いじゅたんを歩いてくれたみなさん。たくさん拍手がいただけました。

12時からの踊り子さん、まずは3人の子どもの踊り、これが実に素晴らしいものでした。よくぞと思えるようなきびきびとした迫力ある踊り。大きな拍手。(小学2、4年と中学1年)次は大人4人によるダンス、そして、全員が立ち上がったの一緒に踊り。モデルさんたちは、プロの皆さんのダンスを一番前に座って「かぶりつき」で見えていましたから、「立ち上がって一緒に踊りましょう」と言われたら、我先にと全員が立ち上がりました。マイクを持った横山さん(ダンス教室の指導者)の楽しい「お誘い」に乗って、会場全体が踊りまくってしまっただけです。

終わってから、NST、雪国新聞、新潟日報、から取材を受け、その日の夕方、NSTのニュースで3分ぐらい紹介されました。そのカメラマンが「こんなに楽しいなんて想像していませんでした」と



モデル全員が並んで、一人一人を皆さんに紹介しました

言っていました。終わってもだれも立ち上がらない、もつといたたいという表現と受け止めました。新潟市から1人来てくれた斎藤久美子さんは、何10年も前から付き合いで、「言葉の教室」を主催していた保育者でした。そのころから、浦佐で何かあると来てくれていたので、昔からの坂西美和子さん(浦佐認定こども園の園長を去年までしていた)と抱き合って喜んでいました。もちろん、馬場裕子さんとも初対面ながら、すっかり打ち解けて、語り合う場面がありました。

夢草堂が狭いので、声をかけずに会報「桐鈴凜々」で宣伝しただけでした。7月14日の聖籠町でのミュージカルで、空海を演ずる荒井さんが存在感があり、この脚本を作った松岡さんも多くの人から「取材」を受けていました。いよいよ7月14日の公演が楽しみになってきました。チケットはすでに完売しているとのことでした。



終わってから全員が踊りまくったのでした

本エピソードの主人公



夫・隆平さん
身なりも小柄で
顔に比べて大きな
目と口がよく動いた

妻・やすさん
丸顔で人形の面影
脳卒中で寝たきり
となり四年



おり、このほかに
さつお面倒に
なつたすけ、
今後はおらの番って
だけですって

隆平さんは、
訪問ケアに訪れた私に
はつきりと言った



その言葉の通り
隆平さんは本当によく
やすさんの面倒をみていた



隆平さんがここまで
面倒をみるように
なつたのは
ある事件からだつた



事件というのは、
平成元年十月末の晩

やすさんが寝ている時、
うつ伏せになつたまま
窒息状態になり
病院に搬送されたのだつた



医師は入院を勧めたが、
隆平さんは自分が注意して
見るからと連れ帰つた



隆平さんは、
やすさんが窒息し
仮死状態になつたことに
納得がいかなかつた



やすさんのカルテを見ると、
昭和六十三年月日不明から
通院が中断されていた



平成元年の夏までは
介助すれば入浴もでき、
ポータブルトイレも
使うことができた



ばあは病院行くの
嫌がるんなんが、
おらが看るすけ
あちこたねえ

と、ヘルパーに言い
頑張つていたよつた



その頃はまだ、
やすさんは寝返りもでき
話すこともできたが、

いつの間にか
寝たきりになり、
言葉も失われたよつた



自分の判断で
寝たきりになつた
責任を感じたのだらう



私は最初から、
朝から晩まで二年中
本当によく面倒をみるな！
と感心していた

この土地では、
男の介護者は
珍しかったからだ



こつした常識を破る
隆平さんを、
どう理解して良いか考え
あぐねていた



そんな時、
面倒をみる本当の理由が、
「事件」ではなく
「恩義」だと
知ることになつたのだ

「つづく」

「恩義」のテーマで、第2.第3号と、2人の関係の「わけ」が明らかになると思います。「今度はおれの番」とは、妻への恩返しと、人間としての生き方、それが何十年の年をかけて少しずつ深いところへ掘り下げてくれるのではと期待しています。おそらく「何だそんなことか」と思う人と、自分の人生を見直そうと考える人に分かれるかもしれません。次号をお楽しみに。

もえぎ夏祭り

今年もやります！

日時は8月18日11時-13時

場所は浦佐診療所駐車場

今年もキッチンカーが3台来ます

5年ぶりに抽選会も復活

子どもブースもあります

みんなの食堂も継続参戦

いつもの焼きそば、焼き鳥も

毎回恒例生ビールもあります

詳しくはもえぎ新聞8月号

もえぎ施設に掲示してあるポスターを見てください

第13回 みんなの食堂

6月30日(日)萌気園二日町診療所「曼陀羅華」

事務局
財務・100年プロジェクト担当主任 田中 伊織

【みんなの食堂】は目に見える活動としてごもたちに食事を提供していますが、その延長線では、多世代交流拠点としての居場所づくりや孤食、あるいは経済的貧困、家事のワンオペへの緩和など、社会の課題解決を図ることも目的としています。

6月30日(日)萌気園二日町診療所「曼陀羅華」にて13回目の【みんなの食堂】を開催いたしました。

浦佐地区より二日町地区へと開催場所を変更した初めての試みでしたが、近隣の方々から浦佐地区の方々、小さなお子様からご高齢者様までの多くの方々の予約を含め200食を提供することが出来ました。

新型コロナウイルスも5類に移行し、社会経済活動が正常化され、屋内・外での飲食、ボランティアさんによる、お子様向けのゲーム、バルーンアート、七夕の短冊作りを実施しました。

大きなテーブルを皆で囲み食べる食事や、バルーンアートに釘付けになる輝く瞳、短冊に願いを込める真剣な眼差し、学生ボランティアの皆さん

とのゲームにはしゃぐごもたちの姿、その姿を近くで見守る親御さんやご高齢の方々を見ると、目的である多世代交流拠点としての居場所づくりや孤食が改善できていることを実感でき嬉しく思います。

【アンケートの紹介】
物価高で食費もどんどん高くなっていて、なかなか外食なども利用しにくいですが、このような活動をしてくださると、とても嬉しいです。子供が4人いるので家族皆まで600円で1食たべられるというのはとても有難いと感じます。

最後に、折り畳みテーブル・椅子の購入に助成を頂きました【篠原欣子記念財団】様、活動資金の助成を頂きました【NHK歳末たすけあい募金・社会福祉法人新潟県共同募金会】様、活動に共感し共同してくださるnekiasatogakuinボランティア部の皆さん、市民のボランティアの方々感謝し、【みんなの食堂】を今後も継続できるよう精進して参ります。



事業所紹介

萌気園浦佐有料老人ホーム 「ハイマートハイム・島田」 志太 称子

ハイマートハイム・島田は浦佐田町にオープンして14年目を迎えた住宅型有料老人ホームです。食事の提供や掃除洗濯など生活支援が付き、高齢者でも安心して1人暮らしができる高齢者住宅です。

生活支援を必要とする方の1人暮らしですので、入居者1人1人にケアマネージャーが付き支援計画が組まれ、認知症の方でも安心して入居できます。また入居者のほとんどの方が主治医を萌気園浦佐診療所へ移され、訪問診療を受けています。体調の変化時に早期対応、夜間や土日も含め24時間体制のドクターによる緊急時対応を受け管理されています。また看取りも行っております。入居者やご家族の皆様に住み慣れてホームで最期

を迎えられてよかったと思って頂けるよう職員一同、日々奮闘しています。

毎月いろいろなイベントを計画して、入居者だけでなく職員も含め皆で楽しい時間を共有し笑顔があふれるハイマートハイム・島田です。



87歳の医者が 妻に書いたラブレター

これはいったい誰のことか。ラブレターは特定の人が特定の人に書くもので、他人には内緒にしているのでは。皆さん1回~2回は書いたりもらったり経験はありますね。どうでした？うまく行きましたか。「いや彼女の名前を間違えてしまって大失敗したよ、それから書いたこと、もらったことがないんだよ」とぼやく男がいた。

このコラムの見出しは、実は黒岩卓夫の「生涯を書いた本の題名」だ。7人の子のうち、なぜか末子の揺光が自信ありげに断言した。他の子たちは「ウーン」と反応したが、それでもいいよということになった。ところでどんなラブレターなのか。ウソかホントか乞う御期待。

安心コラム



うちの利用者さん

長森生まれ長森育ちの登さん。地元のカラオケ同好会に参加されています。

先日、開催されました第5回南魚沼芸能フェスティバルと第6回夢のステージに出場されました。感想をうかがいますと「やっぱり大勢の人に聴いてもらえると張り合いになるね。」とのことでした。



佐藤 登様

小規模多機能ホーム「さくりの郷」

毎年、お花を植えるのを楽しみにされています。さくりの郷にてピーマンと千日草を植えさせていただきました。ピーマンも大きく実り、昼食の天ぷらとしてお召し上がりいただきました。千日草のキレイな花が咲くのを楽しみにしております。



二日町診療所からのお願い

8/19頃から電子カルテへ移行します。診療の一部変更、もしくは休診させて頂く可能性があります。

受診時、お時間がかかる可能性がありますので、8/1～16までの受診をおすすめいたします。

編集後記

雨に咲く紫陽花が艶々と冴える時期になりました。

萌気会では、ミュージカル空海、ファッションショー、夏祭りなど、梅雨の蒸し暑さに負けず盛んに催しが行われています。コム・ソフィ&ナースやすみれ草でも、民族衣装で着飾りチャイ(甘く煮出したミルクティー)を味わうネパリーカフェを開催したり、お寺の縁日を見に行ったり、さくり温泉の感謝祭に行つて出店の料理を食べてきたりと、感染対策をしながら積極的にレクリエーション活動を行い、利用者さんにお楽しみいただけるように取り組んでいます。

雨の恵も大切ですが、そろそろ梅雨明けが待ち遠しいですね。水分補給をしっかりと行い熱中症に気を付けながら過ごしていきたいと思えます。

もえぎの夏祭りを楽しみにしててくださいね。

今月も最後までお読みいただきありがとうございました。



萌気園老人ホーム 「すみれ草」
小宮山 典子